



森林と人を 生かす知恵 160

家も季節によって衣替え

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 辻 充孝

■家の衣替え

気候変動の影響で、日本の夏はこれまで以上に蒸し暑くなり、夜になっても熱が抜けにくい日が増えていきます。一方で冬の冷え込みは相変わらず厳しく、健康に暮らすために暖房時間はむしろ長くなっています。こうした気候の中で快適に暮らすためには、家もまた季節に合わせて「衣替え」をするという発想が欠かせません。

住まいの温熱環境を左右する大きな要素のひとつが日射です。冬は太陽の熱をしっかりと取り込みたい。けれど夏は、強烈な日差しをどうにかして遮りたい。この相反する要求をどう両立させるかが、これからの住まいづくりの鍵になります。

■遮蔽部材を考える

日射の入り方は、ガラスや窓枠の性能、庇の出、そして遮蔽部材によって決まります。このうち、季節に応じて柔軟に変化させられるのは遮蔽部材です。遮蔽部材には、障子、レースカーテン、雨戸、網戸、すだれなど、様々な選択肢があります。たとえば網戸

は通風のためのものと思われがちですが、実は約50%程度の遮蔽効果があります。冬は取り外すなどの工夫も有効です。レースカーテンも光を和らげる一方で、冬の日射取得には不利に働くことがあります。

■樹木による遮蔽効果

ここで、もうひとつ見落とされがちなのが要素が樹木による日射調整です。落葉樹は「冬は葉が落ちるから日射を妨げない」と思われがちですが、実際には幹や枝だけでも50%程度の遮蔽が生じることがあります。冬の日射を大切にしたい場合、落葉樹だからといって安心はできません。

さらに、植える位置によって効果は大きく変わります。夏の太陽は高度が高いため、南側に木を植えても建物に影を落とすことは意外と少ないのです。そこで有効なのが、東西の「北寄り」に植える配置です。朝日と夕日が低い角度から差し込む時間帯に、樹木がちょうどよく影をつくり、夏の過剰な日射を和らげてくれます。冬の日の出は南東からなので、直射を妨げにく

い。そのため、日射取得との両立がしやすくなります。植栽は単なる景観

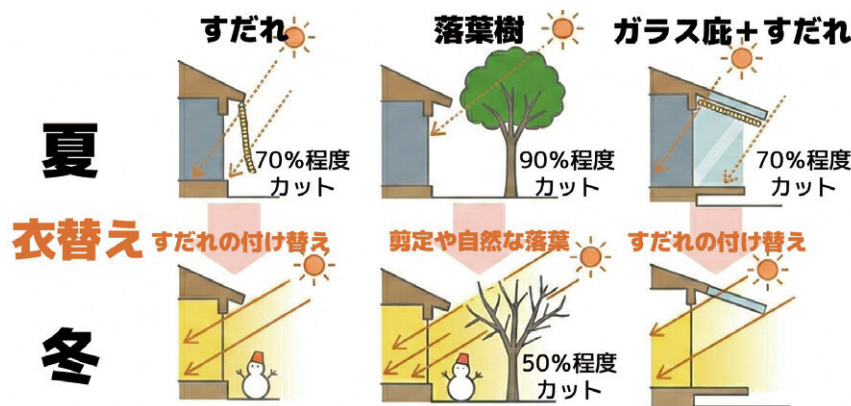


図: 季節の衣替えの例

表: 遮蔽効果の目安

樹木名 遮蔽部材	遮蔽効果	
	夏至	冬至
遮蔽部材なし	0.0%	
屋外	すだれ	70~75%程度
	外付けブラインド	80%程度
	網戸	50%程度
室内	和障子	36~60%程度
	内付けブラインド	30~50%程度
	レースカーテン	25~35%程度
ケヤキ	93%程度	75%程度
プラタナス	87%程度	66%程度
イチヨウ	83%程度	57%程度
ソメイヨシノ	91%程度	54%程度

※遮蔽効果は、辻充孝 (2024) 『ぜんぶ絵でわかる7エコハウス』エクスナレッジより

ではなく、住まいの温熱環境を整える「季節の道具」として活かすことができるのです。

■季節に寄り添う暮らし

冬の日射は、エアコン暖房とはまったく質の違う、自然のぬくもりの心地よさがあります。だからこそ、冬の日射をしっかりと取り込み、夏はしっかりと遮る。そのための「季節の衣替え」を、住まいにも取り入れていきたいものです。

家は一度建てたら終わりではなく、暮らしの中で育てていく存在です。窓まわりの調整や植栽の配置など、自然の力を上手に借りながら、季節に寄り添う暮らしを丁寧に続けていくこと。それは、森林とともに生きてきた日本の知恵を、現代の住まいに取り戻す営みでもあります。

●詳しい内容を知りたい方は TEL (0575) 35-2525 県立森林文化アカデミー まで